

## 令和5年度第2回地域家庭教育推進県中ブロック会議

- 日 時  
令和6年1月23日(火) 13:30～16:10
- 会 場  
郡山合同庁舎仮設庁舎 第1会議室

福島県教育委員会では、「本県の家庭教育推進上の大きな課題である『親の学び』を支援する」ことを目的として、「地域でつながる家庭教育応援事業」を実施している。

まず、福島県地域家庭教育推進協議会（年2回）」と「地域家庭教育推進ブロック会議（各地区年2回）」での協議を踏まえて、大きく2つの事業を実施している。

1つ目に「家庭教育応援プロジェクト」を位置付け、「親子の学び応援講座」「家庭教育応援企業推進活動」を実施している。

2つ目として「家庭教育応援リーダー育成事業」を位置付け、「家庭教育支援チームスキルアップ研修」「家庭教育支援者地区別研修」「福島県家庭教育支援チーム」により全県及び各域内の家庭教育支援者の実践力向上を図っている。

地域家庭教育推進県中ブロック会議は、域内の家庭教育の現状を把握し課題を整理することで、各地区PTA連合会、地域代表、企業代表等と連携しながら、各家庭の実践へとつなげることを目的としている。家庭教育に関わる様々な見識を持っている「推進委員」による協議を通して、学校・家庭・地域が連携し、家庭教育の推進、子どもたちの生活習慣の改善、課題解決に向けての実践的な活動がなされるよう協議している。

### 【出席者】

- 県中ブロック会議 アドバイザー
- 家庭教育推進アドバイザー
- 特定非営利活動法人のびのび福祉会
- 須賀川市家庭教育インストラクター
- かがみいしスポーツクラブ理事長
- 郡山市主任児童委員
- 郡山警察署生活安全課少年女性安全対策第2係長
- 県中児童相談所 主任心理判定員兼児童福祉司
- 郡山市私立幼稚園・認定こども園PTA連合会会長（双葉第二幼稚園PTA会長）
- 郡山市PTA連合会副会長（郡山市立小原田中学校PTA会長）
- 石川郡連合PTA（石川町立野木沢小学校長）
- 田村地方PTA連合会会長（三春町立沢石小学校PTA会長）
- 須賀川市生涯学習スポーツ課社会教育主事

□ 日 程

時 間	内 容	
13:30～	開会行事	○ 主催者あいさつ ○ 日程説明・諸連絡
13:40～	事業報告	○ 県中教育事務所今年度の家庭教育に関する事業報告
13:50～	情報提供	○ 「須賀川市家庭教育インストラクターの会の取組」 須賀川市生涯学習スポーツ課 社会教育主事 井上 謙一 氏 須賀川市家庭教育インストラクター 内山美佐子 氏
14:20～	休 憩	
14:30～	協 議	○ 「地域がつながる家庭教育支援」 ・自分の所属の「強み」「弱み」の振り返り ・グループ内発表 ・連携、協働についての対話 ・全体で発表、共有 ・総括
16:00～	閉会行事	○ 御礼・諸連絡

## 事業報告

### 1 事業報告

- (1) 令和5年 5月30日(火) 第1回福島県地域家庭教育推進協議会
- (2) 令和5年 6月12日(月) 第1回地域家庭教育推進県中ブロック会議
- (3) 令和5年 6月30日(金) 親子の学び応援講座 須賀川市立白方小学校  
「ネットやスマホとの上手なつき合い方についての実践力を高める活動」
- (4) 令和5年10月28日(土) 親子の学び応援講座 「ゴミ拾い活動(環境学習)」  
玉川村立玉川第一小学校・須釜小学校
- (5) 令和5年12月 2日(土) 「家庭教育応援リーダー育成事業」県中域内家庭教育支援者研修会
- (6) 令和5年12月18日(月) 第1回福島県家庭教育支援チームスキルアップ研修会
- (7) 令和6年 1月23日(火) 第2回地域家庭教育推進県中ブロック会議
- (8) 令和6年 2月19日(月) 第2回福島県地域家庭教育推進協議会

### 2 その他

- (1) 家庭教育応援企業
  - ① 県中登録企業総数 255企業(令和5年12月末現在)
  - ② 今年度新規登録企業 3企業
    - (株)紅陽工業(郡山市) ○ 有限会社 野本観光バス(石川町)
    - 神田産業株式会社(須賀川市)
- (2) 家庭教育支援チーム
  - ① 登録数 21チーム
  - ② 県中域内登録 7チーム(4チーム新規登録)
    - kokoyori(須賀川市) 新
    - 郡山家庭教育を支援する会(郡山市) 新
    - 郡山市家庭教育支援チーム のびのび子育てサポーター(郡山市) 新
    - 一般社団法人ホワイトキャンパス(須賀川市) 新

## 情報提供「須賀川市家庭教育インストラクターの会の取組」

須賀川市生涯学習スポーツ課 社会教育主事 井上 謙一 氏  
須賀川市家庭教育インストラクター 内山美佐子 氏

### 1 須賀川市の紹介

(1) 福島県のほぼ中央に位置し、北は郡山市、南東は石川郡、南西は岩瀬郡に隣接している。那須連峰の東、阿武隈高地の山々に抱かれ、市内中心部を阿武隈川、釈迦堂川が流れ、豊かな自然と穏やかな気候に恵まれた町である。

(2) 令和4年11月1日現在の人口は、73,786人。小学校15校、中学校9校、義務教育学校1校、高等学校3校がある。また、子どもたちの居場所づくりとして、19の児童クラブ、7つの子供教室がある。さらに、地域ごとに8つの公民館（現在はコミュニティセンター）がある。

(3) 県内最大規模の花火大会、日本3大火祭りと言われる松明灯、国指定名勝の牡丹園。長沼まつりがある。マラソンの円谷幸吉選手、特撮の神様と呼ばれる円谷英二監督、それに関する記念施設やウルトラマンに関するモニュメントが市内に13基設置されている。

その他、須賀川特設アーカイブセンター、図書館を核として、生涯学習機能、子育て支援機能、市民活動支援機能、にぎわい機能などをあわせ持つ複合施設、須賀川市民交流センターtette。

### 2 家庭教育インストラクターの会の紹介

(1) 令和4年度の会員数は40名。事務局は須賀川市生涯学習スポーツ課。令和3年度、福島県家庭教育支援チームに登録。現在、地域学校協働本部事業補助事業の支援を受けて活動。

(2) 会員になるためには、3年おきに実施している家庭教育インストラクター養成研修会を受講。4年度の養成研修会では、新たに15名が会員となった。養成研修会は、4日間にわたって行われ、子育てに関する12の講座と、学校の参観等を実施。

### 3 家庭教育インストラクターの活動内容

#### (1) 家庭教育支援学級である子育て講座

小学校の就学時健康診断、中学校の新入生徒の保護者説明会に合わせて開催。グループ協議でのコーディネーターや、講義による子育て支援を行っている。子育て講座による支援を通して、保護者の子育てや入学時における不安や悩みの解消を図っている。また、近頃は幼稚園などのお迎えに行っても、車に待機しているだけ、ほかの保護者と話すことは少ないということも聞くので、子育て講座が保護者同士の交流の場として生かされればと考えている。グループ協議では、最初に自己紹介をしてから、子育てや入学前に不安に思っていること、悩んでいること、保護者やインストラクターの話など、ほかの人の子育ての話聞くことにより、不安や悩みの解消を図っている。

#### (2) 相談内容

子育て講座における保護者の相談内容は、小学校では入学前の準備、文字の読み書きの程度。通学の仕方、登校班。給食では時間内に食べられるかとか、そのほかタブレットやスマートフォンの使い方などが問題として上がっている。協議では、グループの中の先輩方から実際の体験やアドバイスももらっている。中学校では、校則や部活動、タブレットやスマートフォンの使い方など、様々な問題が上がるが、家庭教育インストラクターからは、家庭でできることとしては、居心地のいい家庭をつくること、食べること、眠ることが安心してできる場所をつくってくださいとお願いしている。



子供はあっという間に巣立っていくものなので、一緒にいられる時間を笑顔で過ごす家族がふえることが私たちの願い。

### (3) 子育てパンフレット

「たくましく育て、須賀川の子ども」を活用し、各インストラクター、それぞれの育ての体験や経験を交えながら、子育ての支援に関する講話を行っている。インストラクターが平成29年度に作成した子育てのパンフレットは「幼稚園、こども園、保育園、保育版」、「小学校版」、「中学校版」と三つの種類がある。子育て講座で参加された保護者に配布している。

### (4) 研修会

協会の定例研修会は、インストラクターの資質向上と、子育て講座の準備等のために実施。第1回目の研修会は6月上旬に実施され、今年度の事業計画の確認や専門家の講話等を行う。第2回目の研修会は7月上旬に実施され、専門家の方の講話や情報交換等を行う。第3回目の研修会は9月下旬に実施され、私たちインストラクターの一番の出番である小学校や中学校での子育て講座の実施計画や確認、インストラクターの役割分担等を行う。第4回目の研修会は2月下旬に実施され、今年度の事業の反省、次年度の事業計画要望等を行う。

## 4 最後に家庭教育インストラクターになった方から、これからの活動に向けての抱負

(1) インストラクターになったきっかけは、先輩インストラクターからのお誘い。自身、小学生、中学生を育てており、自らの経験から。これからの小中学生の保護者の方のお役に立てればと思い参加を決めた。実際に養成講座に参加し、実際の子育て講座に関わってみると、昨今の家庭教育の現状や悩みが変わってきているということを感じた。教科書どおりにはいかないことではあるが、私たちインストラクターが、保護者と社会とともに、子どもたちを見守り、育てる。そんな地域づくりに少しでも貢献していけたらなと思っている。

(2) 私は現在、小学生2人と幼稚園児1人の子育てをしている中で、私が子どもの頃より、今の子どもたちは外との関わりが減っているなど思うのと同時に、親同士のかかわりも減っていると感じている。誰でも初めての子育てには不安があるので、子育て世帯の共通認識として、家庭教育や家庭の在り方についても学ぶ機会があればいいなと思っていたところ、先輩インストラクターの方から養成研修会のお話をいただいた。研修では、様々な分野の専門家の方の話を聞くことができとても勉強になった。子育て世帯みんなに知ってほしい内容ばかりだった。大切なことをたくさん学び、今年度初めての子育て講座のグループ協議に、インストラクターとして参加し、グループで様々な不安や悩みを共有することが、保護者同士の交流の場になっていると実感した。これからも、教育について学びを深めて、インストラクターの活動や自分の子育てにも役立てていきたい。

## 5 家庭教育インストラクターの会の強みと弱み

### (1) 強み

会員の中には各小学校に、図書ボランティアや支援員など何らかの形で入っている人が多い。また、地域に偏りがあまりなく、その地域の学校のことを知っている会員がいるので、先生方とも連携を取りやすい。また、他にもいろいろな職種の会員がいて、その分野を生かしていることも、ある程度強みである。

事務局が行政なので学校に入りやすい。活動は学校で計画してくれ、行政のバックアップがあるので財政的、計画的なものをしっかり毎年実施することができる。

### (2) 弱み

講座に行くインストラクターが固定化されてしまう。

学校の予定が多く重なると人数を揃えるのが難しい。

行政サイドで計画を立てるので、活動が固定化されてしまう。SNSなどの情報の発信はできていない。

## 協議「地域がつながる家庭教育支援」

議長 地域家庭教育推進県中ブロック会議 アドバイザー 知野 愛 氏

### 1 協議の進め方

- (1) 自分の所属について振り返りながら、ワークシートに書き込む。強み弱みについては、須賀川市家庭教育インストラクターの会の発表を参考にする。
- (2) ワークシートを見せながらグループ内で発表する。
- (3) 互いに連携や協働ができそうなどところについて協議する。
- (4) グループごとに全体で発表し共有する。

### 2 全体での共有

#### (1) Aグループ

家庭教育推進アドバイザーと、PTA連合会の方と、児童相談所で話した。皆さん共通して、地域で子どもを支えるというところで、居場所づくりというところの話が出てきた。PTA関連では、祭りやキャンプ事業などの催しや、寺子屋のような学習できる場所の提供をしている支援の話題があがった。

また、互いに連携協働できそうなどところについては、例えば寺子屋事業を学校会場にすることで学校と地域の支援者の連携がなされるのではないかと。そうなったときにおのずと学校の先生や保護者と子ども、地域の支援者の顔が見える関係になり、よりよい支援につながるのではないかと話になった。



#### (2) Bグループ

警察署、PTA、それから社会福祉、行政のメンバーということで、なかなか互いを補い合う関係性は難しかった。しかし、それぞれが持っている情報は、異なる分野だったので、情報交換、情報の共有というものを上手に図っていくことによって、多くの情報が得られた。そこに対して、できる方できる組織が、中心になって策を講じていくと、互いに協力できることが生まれてくるのではという話になった。

全体として、子どもたちの居場所をどのようにつくっていくべきかという課題がある中で、マイナスの話も多かったが、出来ないことはやはり出来ないし、やはりある程度行政が中心となって、場所の提供などの骨格づくりをしていく中で、民間とどう協力していけるかが重要になってくるのではないかと。



#### (3) Cグループ

総合型地域スポーツクラブ、郡山市民生児童委員、須賀川市家庭教育インストラクター、石川郡連合PTAの校長先生の4人で協議した。

4人の共通話題、範囲として、小学生などの子どもたちの活動に関わっている方が多く、意外と協力・連携できるものが多いという話になった。

小学校数がだんだんと少なくなってきており、それに伴って保護者の数も減り、負担が大きくなっているというこ



とがある。以前は、保護者同士の交流については、子どもがいれば当然補ってくれていたが、今の保護者同士はいろいろな問題があることもある。そういうところに第三者が入るなり、地域の方がどう担っていくかというのも大事になっている。また、PTA活動の人数が少なくなっているのも、なかなか活動ができないような状況もある。

子どもたちを中心に居場所づくりをするのは当然だが、活動をするにあたって地域で互いの顔が見えるような状況ができるといういろんな連携が広がっていくのではないか。総合型スポーツクラブもそうだが、小さい子どもから高齢者まで三つの小学校を中心に地域で活動している。しかし、その事業に携わる方がだんだん高齢化しているので、やはり世代交代が課題でもある。連携することで新しい方を入れていけるような活動をしていくことが大事かなと思っている。

今回4人で連携できそうな事業が結構多くあったので、今後もこのような会の中で、推進員だけでなく連携していける事業ができるといいなという話になった。

### 3 総括

それぞれの協議がとても盛り上がっていて、私もグループを回る中でいろいろと学ぶことができた。発表では、違うグループの話合いを共有できる機会になり、有意義な時間になったのではないかと感じた。また、グループディスカッションの形をとったので、それぞれの方々がいろいろな思いを吐き出す場所になって、よかったのではないかと感じた。

いろいろと人の話を聞き、自分も話すことで、様々な情報を共有できる場所が多かった。Bグループでは、それぞれが持っている情報を共有したが、これからもそういう情報共有を図っていくことが重要ではないか。それぞれ専門の立場があり、連携できる場所と出来ないところがあるが、そこは行政が中心となって、骨格づくりをしてもらうということが大事なのかなと思う。

また、Aグループで話題になった学校などを会場にして、地域の支援者が持つ能力・スキルを提供する場を作る場合、うまく結びつけていくような機関が重要な鍵を握ると思った。

Cグループでは、子どもの数が少なくなり保護者の負担が大きくなっているが、高齢者のことも含めて人々とのつながりを大事にしてお互い交流を進めていくために、インストラクターの方々や、民生児童委員の方が、一生懸命にそれぞれの活動をしていることに感銘を受けた。

三つのグループの発表を受けて、やはり結局は“人と人とのつながり”ではないかと考えた。皆様方はそれぞれの場所のキーパーソンであり、そのキーパーソンの人たちがいかに他の組織の人とつながるか。これから家庭教育力を高めるためには、やはり、この「人と人がつながるための情報共有」と「今日のような場所」がとても重要な意味を果たすのではないかと、以上を総括としたい。

